

令和7年度 中学生による意見交換会について

「新潟市子ども条例」に係る中学生の意見交換会を実施しました。

今年度は、新潟市子ども計画を踏まえ、子ども条例に関することに加え、新潟市が直面している課題や子どもに関する社会課題などをテーマに設定し、18校が参加するオンラインによる意見表明・意見交換会を以下の内容で実施しました。

【実施校】 東西合わせて 18 校

- | | |
|--|--------------|
| <p>(西地区) 新潟柳都中学校、山潟中学校(中央区)
白南中学校、臼井中学校(南区)
坂井輪中学校、中小屋中学校、黒崎中学校(西区)
西川中学校、潟東中学校(西蒲区)</p> | <u>西地区9校</u> |
| <p>(東地区) 南浜中学校、岡方中学校、早通中学校(北区)、
大形中学校、藤見中学校、木戸中学校(東区)
大江山中学校、横越中学校(江南区)
金津中学校(秋葉区)</p> | <u>東地区9校</u> |

【実施日】

西地区: 令和7年9月29日(月)

東地区: 令和年9月30日(火)

【会 場】

- 古町ルフル(本部: 学校支援課)
- 各中学校(西地区司会: 坂井輪中学校 東地区司会: 大形中学校)

【参加生徒】

各中学校 3年生生徒会本部役員を中心に一部2年生も参加

【意見交換会の様子】



令和7年度中学生意見交換会における参加生徒の意見のまとめ

テーマ (1)2022年4月1日から新潟市子ども条例が施行されました。

「新潟市子ども条例」の理解を広めるにはどのようにしたらよいと思いますか？

①校内の生徒に周知・啓発し、理解を広めるためにはどのようにすればよいと思いますか？

- 「新潟市子ども条例」についてチラシやポスターを作り、それを全校生徒に配付したり、校内に掲示したりして周知する。
- 新潟市子ども条例の講演会を開催し、全校で学ぶ機会を設ける。
- 生徒会本部が生徒朝会や集会で「新潟市子ども条例」を学ぶ機会を設け理解を深めていく。
- 学校で新潟市子ども条例についてのクイズを実施する。
- 新潟市子ども条例の理解が深まる動画を市が作成し、各学校で視聴させる。
- 校内のいじめゼロ集会などで新潟市子ども条例についても説明し、全校生徒に人権意識を高める。

テーマ ②子ども条例を大人に周知・啓発し、理解を広めるためにはどのようにすればよいと思いますか？(地域や市全体)

- 各学校で生徒が「新潟市子ども条例」のポスターを作成する。ポスターにはイラストや漫画を描いて、それを地域のいろいろなところに貼り、多くの大人の目にふれさせ理解を深める。
- 子ども条例について、メディアやSNSで広報する。
- 子ども条例の動画やショートアニメをつくり、スマホなどからでも大人に目にしてもらえるようにする。
- 地域のイベントや祭りで、子ども条例に関するブースを作る。また、学校説明会や保護者会で(子ども条例の)リーフレットを配付する。
- スーパーなど大人がよくいく商業施設などに子ども条例のポスターを掲示してもらう。
- 子ども条例についてのアンケートを実施し、子ども条例について考えてもらう機会とする
- 子ども条例の内容をまとめたチラシを地域の回覧板を活用して地域に回す。

テーマ (2)新潟市子ども条例の子どもの権利を受けて、子どもが健やかに成長するためには、おとなにはどのように接してほしいと思いますか？(親や先生、地域のおとな)

- こどものやりたいことを否定したり制限しすぎたりせず、のびのびとさせてほしい。
- こどもを優しく見守っていてほしいのと、助けが必要なときは支えてほしい。
- (卒業後)こどもの進学したい学校や将来の夢や目標を全力で応援、サポートしていつでも相談にのってほしい。
- こどもが意見言っているときは、最後まで話を聞いてほしい。
- こどもに対して体罰などによる指導ではなく、一人の人間として個性を尊重し、否定するのではなく接してほしい。

テーマ (3)いじめの防止や不登校対策についてどのように考えますか？

①あなたが考えるいじめ防止の方策として、学校内ではどのような取組が考えられますか？

○1カ月に1回学校生活アンケートを実施していて、いじめや悩み事に対して該当する項目があった場合は、すぐに先生が寄り添って対応してくれている。

○生徒会本部が中心となっていじめ見逃しゼロスクールを行ったり、いじめ撲滅の活動を行ったりする。また、実際にいじめの被害にあわれた人を学校に招き、お話を聞いて全校生徒でいじめ撲滅に関して考えを深める。

○道徳の授業で、生徒自身の自己肯定感を高め、他者を尊重する心を育む。最近の問題でインターネットを通じたいじめについて、講習会などを開催し、情報モラルやインターネットを通じたいじめの事例などを全校生徒が理解する。

テーマ ②あなたが考える不登校生徒への支援は、どのようなことを行ったらよいと考えますか？

○すぐに登校刺激を与えるのではなく、自分から行きたくなるまで温かく見守る。

○不登校生徒とスクールカウンセラーとの時間をつくり、悩みを聴いたり、メンタルケアをしたりする。

○先生方が生徒の気持ちに寄り添ってくれることが大切。

○不登校児童生徒に ZOOM など個別支援を行う。

○学校以外で学んだり、遊んだり、学習以外でやってみたいことができる場所を作る。

○学校に来られない生徒のために夜間学校や学級を作る。

テーマ (4)児童虐待の痛ましい事件が社会問題となっていますが、虐待が発生する前の予防策や啓発活動、発生後の対応策をどのようにすればよいと思いますか？

○保護者が気軽に悩みを相談したり、息抜きをしたりすることができる場所やサービスを充実させる。

○学校と地域との連携でこどもの異変に気付き、虐待を早期発見し即時対応する。

○市で標語コンクールなどを行い、虐待について市民全体で虐待について考える機会をつくる。

○親への虐待予防策として、親の子育てへの間違った認識や知識不足からなる要因を解消するため子育て教室を開催する。

○こどもには学校の全校集会などで、「もし虐待を受けたらどうするべきか」「周りの人は何をしたらよいか」などを伝え、対応策に対して意見交換する機会を設定し、児童虐待について学ぶ。

○虐待発生後に加害者に対して定期的なカウンセリングを行う。

○児童虐待の主な原因を分析し、家庭環境要因であれば、夫婦関係の問題や孤立感が解消できる相談窓口を設置する。

○家族のストレスの軽減を図るため、親同士で交流できる場をつくったり、職場でカウンセリングができる相談窓口を作る。

テーマ (5)現在日本では、貧困やヤングケアラーが問題となっています。そのような状況下にある子どもへの支援はどのようにすればよいと思いますか？

- 貧困家庭に対して、無償で食事を提供するサービスを行うシステムを作る。
- 子ども食堂の設置拡大。
- ヤングケアラーは家のお手伝いとは違うということを、こども自身がしっかりと理解して困っているときに相談できるようにする。
- ヤングケアラーで悩んでいるこどもに対して、相談先、支援機関を紹介する。
- ヤングケアラーに対する支援制度の充実
- チャット相談などで誰でも相談できる場所や環境を作り、対面が苦手な人でも安心して手軽に利用できるようにする。
- 経済的な理由などで塾に通えない人のために無料の塾を設置する。
- 家事代行サービスを無料で受けられるようにする。

テーマ (6)新潟市では、「子育てにやさしいまち」の実現を目指しております。子育てにやさしいまちとはどのようなまちを想像しますか。また、そのまちの実現には、どのようなことに留意して取り組んでいったらよいと思いますか？

- 子育てが充実し、こどもが遊ぶ施設や環境が整っているまち
- 教育や医療などの面が充実していて、安心して暮らせるまち
- 治安がよく、環境が整備され安心・安全できれいなまち
- 子育てについて何でも相談できる場所がある。
- 小さいこどもを持つ親が安心して利用できる施設やこどもが遊べる施設がある。
- 中学生まで医療費を無料にする。
- 電車やバス料金を中学生も小学生と同一料金にする。
- 親の共働きが当たり前になった社会なので、仕事と家庭生活が両立できる支援や制度が企業も賛同できるようにする。
- 市から子育て世代に経済的な支援が充実するようにする。
- 酷暑や雪などに左右されない施設や場所・環境があり、子どもが無料で遊ぶことができるようにする。
- こどもが利用する公園や図書館などの公共施設や環境をきれいにし、使用のルールが守られるまちにする。
- 子育て支援施設を充実させ、防災活動で安心安全なまちづくりの取り組みをする。
- 子育てにやさしいまちの実現のために、ベビーカーや自転車事故が起きないように、歩道を整備したり、街灯をたくさん設置したりして暗いところをなくして治安をよくする。
- 今のままでも子育てにやさしいまちだと思う。

テーマ (7) 将来、新潟市に住みたいと思える魅力あるまちにするには、どのような取組(方策)が必要だと考えますか？

- 交通のアクセスをさらに良くして、県外や海外の人が来やすいまちにする。
- 観光に力を入れ、市や地域で行う行事を増やし、もっと PR していく。
- 新潟の特産物や観光名称や場所について、テレビや SNS で詳しく PR する。
- 誰もが住みやすく、治安のよいまちにする。
- 市の中心である中央区を中心に、区間同士のつながりを強化することを目的に、公共交通機関の設備を強化する。
- 道路と歩行者の間の自転車の道が曖昧でわかりにくいので整備してほしい。
- 子育て支援をより活性化させ、子どもの遊べる公園や施設、活動を増やす。
- こどもを持つ親同士が関われるコミュニティをつくる。
- 自然災害に対応するため、ハザードマップの強化などを行う。
- 新潟市の魅力を県内外に発信する。特に、食文化や自然などを盛り込んだパンフレットや SNS を利用してマーケティングを行う。
- 大規模なイベントを行い、観光に力を入れる。
- 新潟の物産を使用した食べ物を開発し PR していく。
- 若者が新潟を離れ大都市へ出ていかないよう、新潟の企業をアピールするシステムを、大学と企業が連携して作る。
- 結婚や子育ての支援を充実させる。
- 治安をよくするルールを作っていく。
- 子育て支援を充実させ、防災活動などで安心安全なまちづくりをし、新潟市の良さを SNS で発信していく、
- 「ここ(新潟市)で子育てをしたい」と思えるような子育て世帯への支援を充実させる。
 - 市からの経済的・金銭的な支援が充実させる。
 - 子どもが無料で遊んだり、様々な体験ができたりする場所・環境を整備する。(特に夏の暑さや冬の雪などに左右されない環境の施設整備)
- 魅力のあるまちにするためには話題性が必要である。歴史のある建物を活かし、流行りの食べ物などを売ったり、アーティストなどを呼びライブやイベントなどを開催したりすることで、SNS などで話題になり、新潟市に興味をもつ人が増えると思う。

